

## H27シカ年度実行計画の実施状況



## H27シカ年度実行計画(管理事業)一覧

管理手法	遺産地域		隣接地域	
	エゾシカA地区	エゾシカB地区		
防御的手法		<p><b>特定管理地区(知床岬)</b></p> <p>■既存の侵入防護柵の維持・補修 概要: 既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所: 知床岬 事業時期: 通年 実施主体: 環境省、林野庁 (既存侵入防護柵)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・亜高山高茎草本群落(20m×20m)</li> <li>・ガンコウラン群落(15m×15m)</li> <li>・山地高茎草本群落(エオルシ)</li> <li>・林野庁森林調査区(1ha)</li> </ul>	<p>■既存の侵入防護柵の維持・補修 概要: 既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所: 幌別ー岩尾別地区 事業時期: 通年 実施主体: 林野庁、斜里町 (既存侵入防護柵)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幌別地区林野庁森林調査区(1ha)</li> <li>・岩尾別カシワ林林野庁森林調査区(林野庁H20, 21, 22設置)(3.55ha)</li> <li>・しれとこ100平方メートル運動地内の各種侵入防護柵</li> </ul> <p>■侵入防護柵の新規設置 概要: 侵入防護柵の新規設置 場所: 幌別ー岩尾別地区 事業時期: 春～秋 実施主体: 斜里町 (新規侵入防護柵)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩尾別地区岩尾別川河畔林(0.6ha)</li> </ul> <p>■樹皮食い防止対策の実施 概要: ポリエチレン製ネットによる既存単木保護木(オヒョウ、イチイ、ミズキ、アオダモ等、計約800本)の補修等 場所: 幌別ー岩尾別地区(「100平方メートル運動の森・トラスト」(斜里町)) 事業時期: 春～秋 実施主体: 斜里町</p>	<p>■ウトロ市街地侵入防護柵の維持管理を含めた被害対策 概要: ウトロ市街地を取り囲む侵入防護柵(延長距離4.1km)の維持管理および被害対策(柵内のシカの除去を含む) 場所: ウトロ市街地 事業時期: 通年 実施主体: 斜里町</p> <p>■既存の侵入防護柵の維持・補修 概要: 既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所: ウトロ地区(イチイ林木遺伝資源保存林) 事業時期: 通年 実施主体: 林野庁</p>
越冬環境 改変		<p>■開拓跡の未立木地の森林化作業 概要: しれとこ100平方メートル運動地内での、開拓跡未立木地の森林化作業(植樹苗の保護育成等)を引き続き実施 場所: 幌別・岩尾別地区 事業時期: 春～秋 実施主体: 斜里町</p> <p>■道路法面牧草面積の拡大抑制 概要: 工事実施にあたっての協議や許認可の際に、新たな牧草面積の拡大を可能な限り抑制するよう指導に努める 場所: 特に国立公園内のシカ越冬地周辺の道路沿い 実施主体: 環境省</p>		
個体数調整		<p>■仕切柵の維持管理 概要: 仕切柵の維持管理 場所: 知床岬 事業時期: 通年</p> <p>■密度操作事業 概要: 春期および越冬期におけるシカの捕獲 場所: 知床岬 事業時期: 平成27年6月、平成28年3, 5月 実施主体: 環境省</p>	<p>■ルサー相泊地区における密度操作事業 概要: 越冬期におけるシカの捕獲 場所: ルサー相泊地区 事業時期: 平成27年12月～平成28年4月 実施主体: 環境省</p> <p>■幌別ー岩尾別地区における密度操作事業 概要: 越冬期におけるシカの捕獲 場所: 幌別ー岩尾別地区 事業時期: 平成27年12月～平成28年5月 実施主体: 環境省</p>	<p>■銃による個体数調整捕獲 (羅臼市街周辺ー羅臼町、ウトロ高原ー斜里町、真鯉地区ー林野庁)</p> <p>■囲いワナによる個体数調整捕獲(ウトロ・真鯉地区ー斜里町、林野庁)</p> <p>■くくりわなによる個体数調整捕獲(羅臼峯浜町ー羅臼町)</p> <p>■狩猟による密度操作(北海道)</p>

## H27シカ年度実行計画(モニタリング調査)一覧

		調査項目	遺産地域		隣接地域
			エゾシカA地区	エゾシカB地区	
植生	詳細調査	植生回復調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■亜高山高茎草本群落侵入防護柵(20×20m)内外</li> <li>■ガンコウラン群落侵入防護柵(15×15m)内外</li> <li>■山地高茎草本群落侵入防護柵</li> </ul> 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>■幌別・岩尾別:100平米運動地各種侵入防護柵内外</li> </ul> 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:斜里町	
		個体数調整対象地域シカ採食圧調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■知床岬台地上ササ調査区</li> </ul> 概要:ササ高・被度を調査し採食圧を把握。 時期:9月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ルサー-相泊地区固定調査区モニタリング調査</li> </ul> 概要:平成23年に設定した固定調査区のモニタリング調査 時期:9月 実施主体:環境省	
	広域的調査	シカ採食圧広域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東岳シレットコスミレ採食状況調査</li> </ul> 概要:シレットコスミレの株数・採食痕調査 時期:7月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>■広域採食圧調査</li> </ul> 概要:植生調査(草本含む)、被食状況調査 知床岬地区、ルサー-相泊地区、幌別-岩尾別地区 時期:8月 実施主体:林野庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>■海岸(羅臼側)植生・採食圧調査</li> </ul> 概要:ウナキベツ地区における海岸植生調査 時期:9月 実施主体:環境省
		在来種分布調査			
		植生調査			
エゾシカ個体数・個体数指数	詳細調査	シカ生息動向調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■航空カウント</li> </ul> 概要:ヘリからの越冬個体数把握 時期:2月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ルサー-相泊:ライトセンサス</li> </ul> 概要:ライトセンサス調査(岩見橋~相泊:調査距離10.2km) 時期:春、秋 実施主体:羅臼町	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ウトロ-真鯉:日中センサス</li> </ul> 概要:日中センサス(調査距離約10km) 時期:1~3月 実施主体:知床財団
		自然死亡状況調査		<ul style="list-style-type: none"> <li>■幌別・岩尾別:ライトセンサス</li> </ul> 概要:幌別・岩尾別地区のライトセンサス調査(調査距離9.5km) 時期:春、秋 実施主体:斜里町	<ul style="list-style-type: none"> <li>■羅臼町峯浜:ライトセンサス</li> </ul> 概要:ライトセンサス(調査距離約10km) 時期:10月下旬 実施主体:北海道
	広域的調査	越冬群分布調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■知床半島全域:広域航空カウント</li> </ul> 概要:ヘリからの越冬個体数把握 時期:平成28年2月 実施主体:環境省		
		季節移動調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ルシヤ地区季節移動調査(2年目)</li> </ul> 概要:GPS首輪装着済み10頭の行動圏を把握 新規4頭にGPS首輪を追加装着 時期:通年。後者は平成28年5月上旬 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行動圏・季節移動調査</li> </ul> 概要:GPS首輪を装着した個体を追跡して行動圏を把握 (幌別-岩尾別) 時期:通年 実施主体:知床財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行動圏・季節移動調査</li> </ul> 概要:GPS首輪を装着した個体を追跡して行動圏を把握 (真鯉) 時期:通年 実施主体:知床財団
土壌浸食	詳細調査	土壌浸食状況調査			
	広域的調査	土壌浸食状況広域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌浸食状況の広域モニター(当面は広域採食圧調査の中で、林床の裸地面積等の変動を調査することで簡易的に把握)</li> </ul>		
生態系への影響	詳細調査	陸生鳥類生息状況調査			

個体数調整の中長期目標 ver.201607

※   は実績値、  は目標値

	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期		H27シカ年度	H28シカ年度	備考	
	実行計画		H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度	H25シカ年度				H26シカ年度
A 知床岬	I. 捕獲前航空カウント	上段: 生息頭数(≒実数)	246	265	第1段階目標: 35以下 5以下				1~2月(捕獲実施前)に実施 対象範囲=約7km <sup>2</sup>  第1段階目標:1980年代レベル (知床岬先端部のみの航空カウントで5頭/km <sup>2</sup> 以下)	
		下段: 生息密度(頭/km <sup>2</sup> )	35	38	56 8	59 8.4	130 18.6	63 9.0		
	II. 捕獲頭数 (仕切柵内)	目標	—	—	45 (航空カウントの80%)	30 (航空カウント値-29)	101 (航空カウント値-29)	34 (航空カウント値-29)	自然増加率0.2とし、翌年の捕獲前生息数35頭以下となる数	
		実績	57	216	32	9	88	10	春季6月分捕獲実績は前年シカ年度に含めた	
	III. 捕獲後推定値	上段: 推定生息頭数	189	49	24	50	42	53	29以下 4.1以下	自然増加率0.2とし、翌年の捕獲前生息密度5頭/km <sup>2</sup> 以下となる数 = 29頭/7km <sup>2</sup> 以下が捕獲後の第1段階目標値
		下段: 推定生息密度(頭/km <sup>2</sup> )	27	7	3.4	7.1	6.0	7.6		
	IV.U-01+11ヘリセンサス	生息密度(指数)(頭/km <sup>2</sup> )	10.06	—	7.32	13.62	12.35	11.77	第2段階(最終)目標:5以下(捕獲前)	面積(U-01+11)=20.48km <sup>2</sup>
	捕獲手法・検討事項		○ヘリによる厳冬期捕獲	○仕切柵設置 ○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船1回	○仕切柵を活用した捕獲 船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船4回(うち2回は無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿泊捕獲)	H19シカ年度~個体数調整開始 H23シカ年度 仕切柵設置 広義の知床岬地区(U-01+11)でのヘリセン発見密度5頭/km <sup>2</sup> 以下が第2段階目標	
B ルサー相泊	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期		H27シカ年度	H28シカ年度	備考	
	実行計画		H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度	H25シカ年度				H26シカ年度
	I.U-12+13ヘリセンサス	上段: 生息頭数(指数) 下段: 生息密度(頭/km <sup>2</sup> )	284	—	第1段階目標: 111以下 5以下			第2段階(最終)目標: 53以下 2.4以下	第2段階(最終)目標: 53以下 2.4以下	面積(U-12+13)=22.38km <sup>2</sup>  第1段階目標:5頭/km <sup>2</sup> (ヘリセンサス値) 第2段階目標:5頭/km <sup>2</sup> (実生息密度)を提案 (ヘリセンサス仮見落とし率52%で換算)
			12.69		215 9.61	137 6.12	120 5.4			
	II. ライトセンサス	秋(捕獲前) 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	4.0	2.3	2.9	0.8	調査距離10.2km 秋ライトセンサス見落とし率82%と仮定	
		春(捕獲後) 個体数指数(頭/km)	19.4	9.5	13.2	6.2	5.5	5.4	調査距離10.2km 春ライトセンサス見落とし率58%と仮定	
	III. 標識再捕獲法によるメス成獣推定個体数(捕獲後春)		327.7±94.2	184.0±46.5	—	—	—	—		
IV. 捕獲頭数	目標	—	—	300	220	215	210			
	実績	125	188	78	208	88	79			
V. 推定生息頭数	捕獲前	592	560(467×1.2)	448	285	250	498	仮 503(419×1.2)	捕獲前の推定生息頭数は、原則として当該シカ年度のヘリセンサス値から仮見落とし率52%として粗く算出(U12+U13)自然増加率0.2	
	捕獲後	467	372	370	77	162	419			
捕獲手法・検討事項		○囲いワナ1基 ○定点SS	○囲いワナ2基 ○巻狩り ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	H21シカ年度~個体数調整開始		
C 幌別-岩尾別	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期		H27シカ年度	H28シカ年度	備考	
	実行計画		H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度	H25シカ年度				H26シカ年度
	I.U-05+06ヘリセンサス	上段: 生息頭数(指数) 下段: 生息密度(頭/km <sup>2</sup> )	706	—	第1段階目標: 260以下 12.3以下			第2段階目標(案): 105以下 5以下	第2段階目標(案): 105以下 5以下	面積(U-05)=11.54km <sup>2</sup> , (U-06)=9.51km <sup>2</sup> 合計21.05 km <sup>2</sup>  第1段階目標:2003年水準ヘリセンサス値 第2段階目標:5頭/km <sup>2</sup> (ヘリセンサス値)を提案
			33.5		231 11	194 9.2	121 5.7			
	II. ライトセンサス	秋(個体数指数) 目標値(頭/km)	8.5	7.8	3.6	2.7	2.3	2.9	目標値:5.6以下(2002年値)	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km
		春(個体数指数) 目標値(頭/km)	11.8	4.5	6.6	9.7	3.9	9.1	目標値:15.7以下(2003年値)	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km
	III. 捕獲頭数	目標	—	—	1,060	400	165	130		
		実績	0	452	418	207	177	106		
	IV.U-04~06ヘリセンサス	上段: 生息頭数(指数) 下段: 生息密度(頭/km <sup>2</sup> )	1303	—	第1段階目標: 391以下 12.0以下			第2段階目標(案): 162以下 5以下	第2段階目標(案): 162以下 5以下	面積(U04+U05+U06)=32.5 km <sup>2</sup>  第1段階目標:2003年レベル 第2段階目標:5頭/km <sup>2</sup> (ヘリセンサス値)を提案
			40.09		314 9.66	292 8.98	187 5.7			
III. 捕獲頭数	目標	—	—	1,060	400	165	130			
	実績	0	452	418	207	177	106			
捕獲手法・検討事項			○囲いワナ1基 ○くくりワナ ○流し猟式SS(冬)	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS(秋・冬・春)	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(冬) ○大規模囲い柵	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵	H23シカ年度~個体数調整開始 H25シカ年度 岩尾別地区大規模囲い柵整備		

# 実施結果位置図

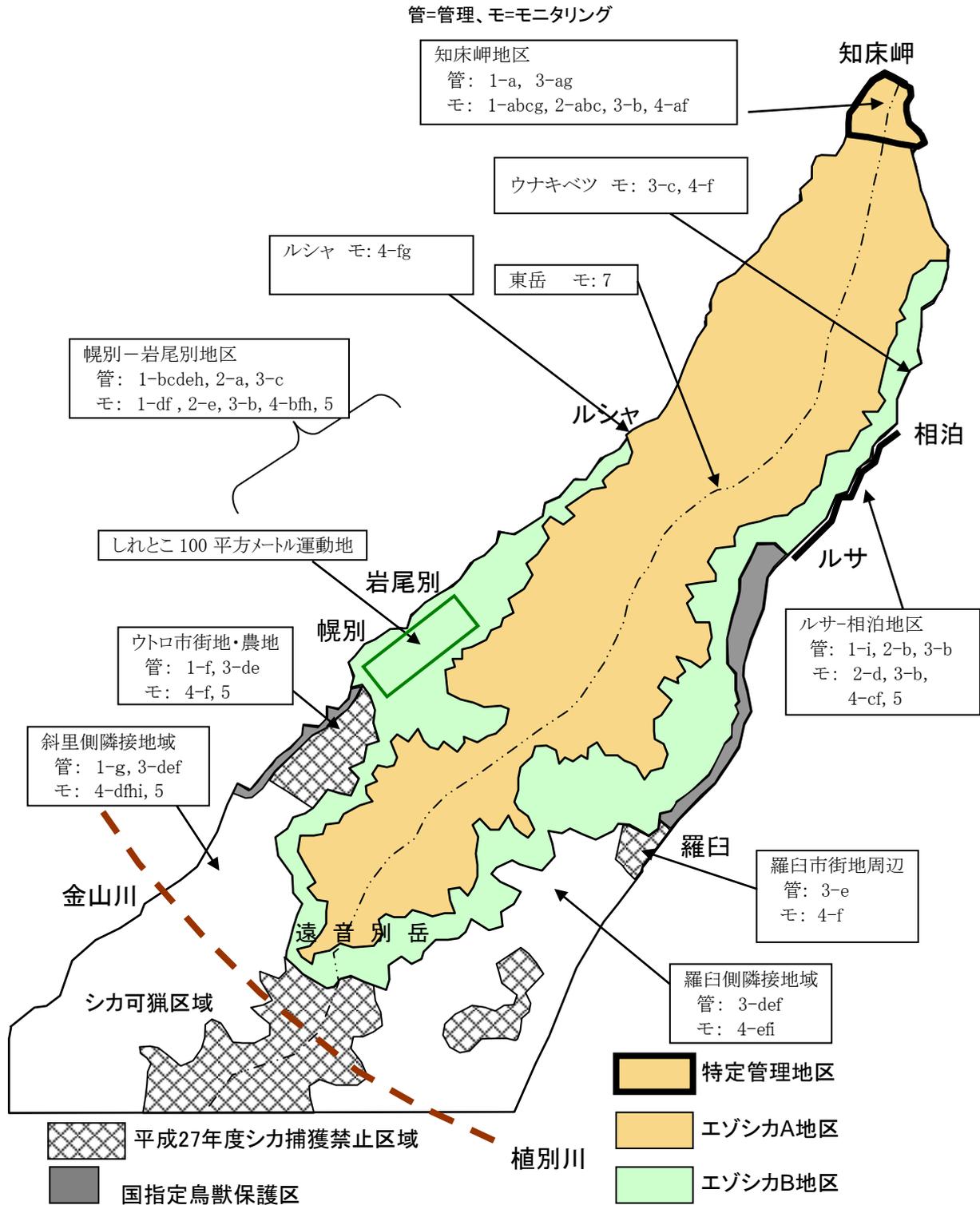


図 1. 関連地域における管理事業・モニタリング事業の位置。番号・記号は本文に対応。

(対象地が広範に分布するものについては記載せず)



## 管理事業（特=特定管理地区、A=エゾシカ A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地域）

### 1. 防御的手法

#### a. 知床岬侵入防護柵管理(特: 環境省・林野庁)

H28 年 5 月に破損箇所を確認したため、6 月に補修を実施(H28 年 6/19 完了)。

#### b. 幌別侵入防護柵管理(B: 林野庁)

H27 年 10 月および H28 年 5 月に補修作業を実施。

#### c. 運動地侵入防護柵管理(B: 斜里町)

・既存各防護柵において老朽化した支柱の交換等の補修を実施。

#### d. 岩尾別川河畔林侵入防護柵設置(B: 斜里町)

・河畔林保護を目的として、岩尾別川沿いの河畔林に2カ年計画で防護柵を設置。H27 シカ年度に完了した。

#### e. 運動地樹皮ネット管理(B: 斜里町)

・劣化したネットの巻き直し等、既存保護木の維持作業を実施。

#### f. ウトロ市街地侵入防護柵管理(隣: 斜里町)

・冬季の雪圧による破損が 1 カ所あり、補修予定。

#### g. イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵管理(隣: 林野庁)

・H28 年 5 月に踏査するが問題箇所なし。

#### h. 岩尾別カシワ林侵入防護柵設置(B: 林野庁)

・H28 年 5 月に踏査するが問題箇所なし。

#### i. ルサー相泊の侵入防止電気柵管理(B: 羅臼町)

・H25 年でキキリベツから相泊(ルサ川を除く)までの約 8 km 区間の電気柵設置完了。H27 年は羅臼市街地南側に電気柵を設置した。主な目的はヒグマの侵入防止だが、エゾシカにも効果あり。

### 2. 越冬環境改変

#### a. 運動地森林化作業(B: 斜里町)

・防鹿柵内外への中型～大型苗の植え替え等を実施。

#### b. 道路等法面牧草面積の抑制(環境省)

・道道知床公園羅臼線(ルサー相泊地区)の工事 1 件において、現地表土による緑化とし、新たな牧草法面を造成しない工法とした。

### 3. 個体数調整

#### a. 知床岬 密度操作事業(特: 環境省)

・H27 年 6 月に船で岬入りし、宿泊を伴う捕獲を 1 回実施、計 15 頭を捕獲。H28 年 3 月にヘリコプターで岬入りし宿泊を伴う捕獲を 1 回、H28 年 5 月に船で岬入りし宿泊を伴う捕獲

を1回実施。合計3回の捕獲作業で、H28年5月末までに計24頭を捕獲。

b. ルサー相泊地区 密度操作実験(B:環境省)

- ・道道知床公園羅臼線での流し猟式シャープシューティングをH28年3～4月に6回実施し、計31頭を捕獲。
- ・ルサ川左岸の囲いわなで、H28年1月～4月に16頭を捕獲。
- ・アイダマリ川左岸の囲いわなで、H28年1月～3月に32頭を捕獲。
- ・2つの捕獲方法により、計79頭を捕獲した。

c. 幌別-岩尾別地区 密度操作実験(B:環境省)

- ・岩尾別地区の仕切柵を囲いわなとして使用し、H28年1～5月に計32頭を捕獲。
- ・幌別川河口の囲いわなでH28年1～3月に計51頭を捕獲。
- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの約0.6kmの通路沿線で流し猟式シャープシューティングをH28年2～3月に8回実施し、計23頭を捕獲。
- ・岩尾別川河口の囲いわなはH27シカ年度から設置せず。
- ・知床五湖高架木道上からの狙撃はH27シカ年度には実施せず。
- ・3つの捕獲手法により、計106頭を捕獲した。

d. 銃による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・斜里町ではH27年6月～H28年3月にウトロ高原農地で49頭、H27年6～9月に半島基部農地で63頭捕獲した。H28年4～5月に、ウトロ高原農地で13頭、半島基部農地で36頭を捕獲。
- ・羅臼町では町有林における巻き狩りと流し猟により、H27年6月に30頭、H28年1～3月に74頭、H28年5月32頭、計138頭を捕獲(羅臼町及び町鳥獣被害防止協議会)。
- ・林野庁では、H28年3月に、斜里町遠音別において遠距離狙撃で4頭、モバイルカリングで0頭、同町真鯉において巻き狩りで15頭捕獲。

e. 銃器以外による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・斜里町、林野庁及び株式会社知床エゾシカファームで協定を結んだ囲いわな捕獲(三段の滝)では、H27年12月～H28年5月に28頭を捕獲。
- ・斜里町では、H27年6月～H28年5月にウトロ高原農地においてくくりわなで23頭を捕獲。
- ・林野庁では、H28年2～4月に、ウトロにおいて囲いわな3基で84頭、遠音別において囲いわな2基で69頭、真鯉において箱ワナ3基で12頭捕獲。以上には職員実行を含む。
- ・羅臼町では、H27年11月に峯浜町において、くくりわなで2頭を捕獲。

f. 狩猟(隣: 北海道、林野庁)

- ・斜里町内の隣接地区において狩猟での効率的な捕獲を検討するため、可猟期間に中断期間を設定した。結果は取りまとめ中(北海道)。
- ・斜里町遠音別の林道3路線について可猟期間中に除雪を行ない、一般狩猟者による30頭の捕獲を支援した(林野庁)。

g. 仕切柵の維持管理(特:環境省)

- ・知床岬の捕獲支援用仕切柵の破損箇所の確認および補修作業を実施。
- ・H27年11月に補修作業を実施。
- ・H28年5月に新たな破損箇所が無いか踏査した。

**モニタリング調査(特=特定管理地区、A=エゾシカA地区、B=同B地区、隣=同隣接地域)**

**1. 植生回復**

a. 知床岬 亜高山高茎草本群落侵入防護柵(羅臼側トリカブトフェンス)(特:環境省)

- ・柵設置から11年が経過し、柵内では一時減少したオオヨモギが再び増加し、被度82%(平均値)となった。他種を被圧しつつある状況。
- ・柵外の対照区では依然不嗜好植物のトウゲブキが優占している状況が続いている。

b. 同 ガンコウラン群落侵入防護柵(アブラコ湾風衝地)(特:環境省)

- ・柵設置から12年が経過。柵内のガンコウランは回復傾向が続いているものの平均被度は昨年とほぼ横這い。ガンコウラン以外の種では増減の変動が目立った。
- ・柵外では、ガンコウランの生育面積や個体数に減少傾向がみられたが、他の指標となる嗜好種では増減の変動が目立ち、一部(シコタンヨモギ)が増加していた。

c. 同 山地高茎草本群落侵入防護柵(エオルシ)(特:環境省)

- ・柵設置から12年が経過。回復した植生が密生している状態が維持されている。
- ・種ごとに増減傾向は異なり、オオヨモギやハマニンニクの被度が顕著に高まっている。
- ・セリ科草本の回復の傾向は全体的に鈍い。

d. 幌別一岩尾別100平米運動地各種侵入防止柵内外(B:斜里町)

- ・既存の調査プロットにて、枯死数、生存数、新規加入数等を調査。
- ・防鹿柵内では、広葉樹の天然更新実生がエゾヤチネズミの被害を受け減少。
- ・柵外の一部では広葉樹実生は確認されるものの、すでにトドマツ等が優占し樹冠がおおわれている区画では広葉樹実生は少数に留まり、さらにネズミによる被害を受けて一部で消失した。
- ・なお、運動地全般では、各所にてこれまで目につくことがなかった実生や草本の姿を確認する機会が増加している。

e. カシワ林内外侵入防止柵内外(B:林野庁)

- ・H27年調査なし。

f. 幌別地区侵入防止柵内外(B:林野庁)

- ・H27年8月に広葉樹下枝、稚樹、林床植生の各植物の被度を調査。
- ・柵内では広葉樹下枝の回復が認められた。
- ・エゾヤチネズミの大発生が影響し、柵内で稚樹確認数や各植物の被度が大きく減少。

g. 知床岬地区侵入防止柵内外(特:林野庁)

- H27 年 8 月に広葉樹下枝、稚樹、林床植生の各植物の被度を調査。
- 柵内では広葉樹下枝の回復が見られる。
- 柵内で稚樹確認数が増加。

## 2. 密度操作対象地域

固定調査測線上のイネ科草本の現存量、ササ群落の高さ・被度、林縁部の葉量などの変化について継続調査した。

### a. 知床岬地区 林縁部の葉量分布の追跡調査区(特: 環境省)

- ・高さ 50cm の階層ごとの木本葉量について、200m ライン 2 本で調査。
- ・高さ 200cm 以下の階層の葉量は、調査範囲が固定されていなかったため厳密には比較できないが大幅に減少し、エゾシカの採食圧が未だに高いことを示唆した。

### b. 同 ササ調査区(特: 環境省)

- ・100m ライン 3 本の 18 箇所ですササ類などの被度と高さを追跡調査。
- ・ササ類の平均高は回復傾向にあったが 2014 年以降安定し、大きな変化が見られなくなっている。

### c. 同 イネ科草本等調査区(特: 環境省)

- ・金属柵と固定調査ラインを用いてイネ科草原の植生の回復と採餌量の変化を調査。
- ・柵内外ともクサフジ、ハンゴンソウの被度が増加傾向にあった。
- ・イネ科草本の 10 月の現存量は 2011 年以降減少傾向だが、確たる原因は不明。

### d. ルサー相泊地区エゾシカ密度操作実験による効果モニタリング(B: 環境省)

- ・ルサー(ルサー、熊岩)、瀬石(昆布浜)、相泊の 3 地区で植生調査及び採食圧調査を実施。
- ・森林植生では広葉樹の稚樹はほとんど確認できなかった。エゾシカによる食痕はクマイザサで確認した。
- ・草原植生では金属柵内では草量に増加傾向がみられ、柵外では減少傾向がみられた。

### e. 幌別-岩尾別地区エゾシカ密度操作実験による効果モニタリング(B: 環境省)

- ・幌別-岩尾別地区内の 3 箇所です植生調査及び採食圧調査を実施。
- ・森林植生では広葉樹の稚樹の確認は無く、ササ類が優占していたが、林床の植被率は低かった。
- ・草原植生では一部で草量の回復傾向がみられたが、多くは金属柵内外の草量が減少傾向にあった。

## 3. 広域採食圧調査

### a. 高標高植生調査(A: 環境省)

- ・高山帯 4 エリア(遠音別最終調査 H23 年、羅臼湖同 H25 年、知床連山同 H24 年、知床沼同 H25 年)では 5 年間隔で実施、今年度の対象調査区はなかった。

### b. 広域採食圧調査(特+A+B+隣: 林野庁、環境省)

- ・森林固定調査区 70 プロットのうち、知床岬、幌別岩尾別、ルサー相泊の 3 地区、合計 17 プロットで下枝、稚樹、林床植生等を調査。
- ・高さ 0.5~1.5m のブラウジングラインの下に該当する広葉樹の下枝被度は 0.1%と、これまで同様低かった。広葉樹の稚樹はわずかし確認されず、エゾシカにより天然更新が困難な

状態が続いていることを示唆した。林床植生は、忌避種の合計被度が高かった。

c. 海岸植生調査(A: 環境省)

- ・H18～21年にかけて実施した調査により、エゾシカによる利用が困難な海岸の岩場周辺の海岸植生に103調査区が設定されている。H27年は、このうち羅臼町ウナキベツ地区の調査区10カ所を再現し、追跡調査を実施した。
- ・対象調査区はエゾシカの影響を受けている海岸草原で、以前の調査(2005～2007年)と比較し、ほとんどの調査区で確認種数が増加した。植被率については多くの調査区でやや減少していた。

#### 4. シカ生息動向

a. 知床岬 航空カウント(特: 環境省)

- ・H28年2月18日に実施し、知床岬先端部の台地上にひろがる草原上に63頭を確認。昨年度の発見数130頭からほぼ半減。

b. 幌別・岩尾別ライトセンサス(B: 斜里町)

- ・H27年秋は幌別、岩尾別がそれぞれ2.8頭/km、3.0頭/kmと前年同期(2.8、1.7)から幌別は横這い、岩尾別は減少。百メス比はそれぞれ47.6、24.5となり、前年同期(37.5、47.8)から幌別は増加、岩尾別は減少。
- ・H28年春は幌別、岩尾別がそれぞれ11.6頭/km、6.3頭/km(前年同期は5.7、1.9)から増加。百メス比はそれぞれ32.8、35.1となり、前年同期(40.2、18.5)から幌別は減少、岩尾別は増加。

c. ルサー相泊ライトセンサス・日中センサス(B: 羅臼町、知床財団)

- ・H27年秋のライトセンサスは10月下旬に5回実施、0.82頭/km、百メス比21.4。
- ・H28年春のライトセンサスは4月下旬に5回実施、5.4頭/kmと前年(5.5)から若干減少。百メス比は19.1と前年(15.5)より増加。
- ・日中センサスは実施なし。

d. 真鯉 日中センサス(隣: 知床財団)

- ・2月12日に最大192頭(16.0頭/km)、前年最大(3/15に238頭、19.8頭/km)から減少。

e. 羅臼峯浜ライトセンサス(隣: 北海道)

- ・H27年10月29日に猟友会羅臼部会が実施(北海道から北海道猟友会への委託業務)。
- ・牧草地コース3.4頭/km、森林コース0.8頭/km(H26年はそれぞれ2.5、0.1)。

f. ヘリカウント調査(A・特・B・隣: 環境省)

- ・H28年2月16～25日のうちの6日間に知床半島全域(計30区画)を5年ぶりに調査し、319群1,725頭を発見。

- ・知床岬地区(広義) : 241頭(2015年比5%減、-12頭)
- ・ルサー相泊地区 : 239頭(2015年比99%増、+119頭)
- ・幌別・岩尾別地区 : 182頭(2015年比1%減、-2頭)

・ルシヤ地区： 325 頭（2015 年比 28%増、 +71 頭）

g. ルシヤ地区季節移動調査(A: 環境省)

- ・H26 年 6～11 月に GPS 首輪を装着した 10 頭のエゾシカ(メス成獣)の行動を追跡調査。1 頭が 7 月末に 4 日間だけ羅臼側に移動し、すぐにルシヤ地区に戻る動きをした。当該個体の他の期間および残り 9 頭は、1 年中ルシヤ地区の狭い範囲に定着していた。
- ・H28 年 5 月上旬に、新たに 4 頭のエゾシカ(メス成獣)に GPS 首輪を追加装着。

h. 行動圏調査(B・隣: 知床財団)

- ・H27 年 2 月に GPS 首輪を装着した 2 頭のエゾシカ(メス成獣)の行動を追跡調査。季節移動はせず、それぞれ幌別地区とオシンコシン地区の狭い範囲に夏まで定着していた。夏に電池切れとなり、H27 シカ年度冬に囲いわなでの再捕獲を試みたが失敗。

i. 真鯉・春苺古丹カメラトラップ調査(隣: 林野庁)

- ・斜里町真鯉のオペケプ林道(H27 年 6, 9 月)と羅臼町の春苺古丹林道(H27 年 7, 10 月)に各 6 台の自動撮影カメラを設置し、エゾシカの出現状況を調査した。

**5. シカ自然死亡 ルシヤ・知床岬・幌別一岩尾別・ルサー相泊・真鯉(全域: 知床財団)**

- ・H27 シカ年度は知床岬、ルシヤにおいてエゾシカの自然死体調査は実施しなかった。
- ・H27 シカ年度に斜里町及び羅臼町の業務において確認された自然死亡は以下。
  - ・幌別一岩尾別: 0 体
  - ・真鯉: 1 体
  - ・ルサー相泊: 0 体

**6. エゾシカ捕獲個体の体重等データ収集体制の確立(B+隣: 環境省、林野庁)**

- ・環境省及び林野庁が知床で捕獲したシカについて、体重、後足長および妊娠の有無等を測定確認するとともに、下顎骨を採取し、知床財団に引き渡す体制を継続(2 年目)。

**7. シレットコスミレモニタリング調査(A: 環境省)**

- ・H27 年 7 月 16 日に調査を実施。エゾシカによる新たな被食株の発見なし。  
(H28 年は 6 月 29 日に調査実施予定)

**8. 鳥類相モニタリング調査(A: 酪農学園大学)**

- ・知床岬および幌別一岩尾別地区で H26 年繁殖期に録音調査を実施。結果投稿中。
- ・H27 年は調査実施なし。